

全日本バレーボール大学選手権大会

初の大学日本一



初の大学日本一に輝いたバレーボール部

歓喜の大学日本一。全日本バレーボール大学男子選手権大会が11月25日から12月1日まで、千葉県・船橋アリーナほかで行われ、専大バレーボール部が1947年の創部以来、初の優勝を果たした。

チームの得点源として、躍動した甲斐優斗(経営 岡谷工高)が最優秀選手賞とサーブ賞を受賞。多彩な攻撃を組み立てた井出脩斗(経済4・聖隷クリストファー高)がセッター賞、堅守を発揮した水野永登(商3・躍動した甲斐優斗(経営 岡谷工高)が最優秀選手賞とサーブ賞を受賞。多彩な攻撃を組み立てた井出脩斗(経済4・聖隷クリストファー高)がセッター賞、堅守を発揮した水野永登(商3・

甲斐がMVP



相手のブロックの上からスパイクを放つ甲斐
＝準々決勝・順大戦

したものの、続く2セットを落として最終セットへ。リードを許すも、主将の竹内慶多(経済4・啓新高)が意地のサービスを決めて同点に追いつく。その後、甲斐のサービスマスで先行するとデュースの末、最後も甲斐のスパイクで中大を下した。

初の決勝の舞台の相手は日体大。甲斐の緩急あるスパイクで好スタートを切ると、セッターの井出は、竹内や堀内大志(文3・日南振徳高)のサイドを交えながら攻撃を組み立て、2セットを連取。第3セットを落とし、第4セットもリードを許す苦しい展開となったが、中盤に竹内が冷静な判断でコート隅にボールを落とし、得点を奪った。

甲斐は「今年は部以外で活動することも多く、

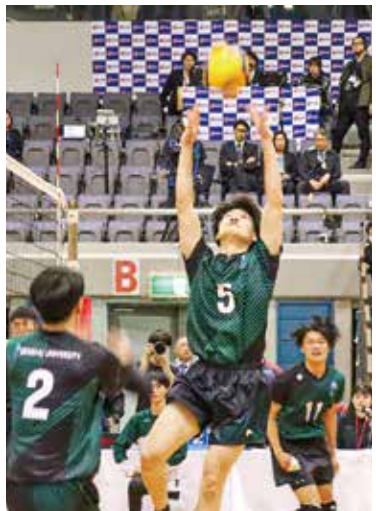
を許す苦しい展開となったが、中盤に竹内が冷静な判断でコート隅にボールを落とし、得点を奪った。



No. 457

専大スポーツ
編集部
公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ↑
@sensuponow
Instagram sensuponow

ええわたるトスで多彩な攻撃を演出した井出



卓球・女子S 出澤
初参戦 初優勝

WTTフィーダー ビラ・ノバ・デ・ガイア=11月23～27日、ポルトガル

世界ランキングの上位入りを目指す選手によるWTT(World Table Tennis)フィーダーシリーズのポルトガル大会に、卓球部の出澤杏佳(文4・大成女子高)が初参戦。女子シングルスで優勝を果たした。

自ら資金を集めて出場し、いつも以上に強い思いを込めて大会に臨んだ出澤は、自分で大きな決断をして出場した大会だったので、優勝の達成感が格別だったと喜んだ。決勝について「どんな状況でも楽しもうという気持ちだった」と、緊迫の最終セットも「後悔しないように、最後まで戦術を考え抜いて実行できた」と冷静だった。

12月3日に発表された世界ランキングでは、129位となり、100位以上の急上昇。これから国際大会に出場してランキングを上げ、より上の大会に挑戦したい」と今後を見据えた。(中島胡春・ネット情報2)



初優勝を喜ぶ齋藤

女子エペ 齋藤 インカレ初制覇

全日本学生フェンシング選手権大会11月13～17日、京都府・大山崎町体育館
個人戦の女子エペで齋藤華南(経済4・秋田商)が初優勝。最後のイ

ンカレで学生日本一の座を射止めた。決勝では明大の岸本鈴と対戦。高身長で高いポテンシャルを持つ1年次生相手に「経験値で勝負しないと」と技術で攻略した。

これまでの海外遠征に照準を合わせていたが、学生最後の大会ということもあり「絶対優勝する」という気持ちで臨んだという。「有言実行できた」とは自信につながる。メ



低い姿勢からアタックを仕掛ける齋藤

専大は、団体戦の女子エペで準優勝、男子エペで3位と活躍を見せた。

1年次生をのみの編成で勝ち進んだ男子エペについて吉成海之亮主将(法4・栃木商高)は「ほぼ完璧と言える試合を見せた。確実に日々の練習の成果が出ており、次は優勝できると確信している」と力強いエールを後輩に送った。(山口由結・文411写真)

専大勢躍進

川口、石田が3位

全日本学生馬術大会(全日本学生三大大会)10月30日～11月4日、世田谷区・JRA馬事公苑

障害馬術競技で川口航矢(文4・近江兄弟社高)・ジュネーブ号が、総合馬術競技で石田渥樹(経済4・北杜高)・ホクソウアスセナ号がともに3位となった。



石田・ホクソウアスセナ号
「い」と喜びを語った。石田は「これまで培ってきた人馬のハーモニーを発揮できたことがうれしい」と笑顔を見せた。(小池佳欧・文3)

準優勝

F61kg級 向田
F65kg級 上村

全日本大学レスリング選手権大会11月9～10日、大阪府・堺市金岡公園体育館

村律心(経済2・高知南高)がともに準優勝。決勝に進んだものの、あと一歩届かなかった。向田は「本当に悔しい。全日本学生選手権の時よりも差は縮まったが、勝ちきれなかった。タイトルを取れるように頑張ります」と話した。

上村は「もっと攻撃的なプレーができるように成長したい。全日本選手権は同じミスをせず、全力で楽しむ」と誓った。なお各階級の順位ポイントによる大学対抗得点では4位だった。(米山初佳・文1)

専大3-2慶大

※7年ぶりの2部復帰

記録コーナー

◇ゴルフ部
▽全日本大学ゴルフ選手権競技(11月5～8日、石川県)【男子】3位

※福住修(経営4・明德義塾高) 最優秀選手

◇ソフトテニス部

▽関東学生秋季リーグ戦

2・3部入れ替え戦(11月16日、東京都)【男子】